

おはようございます。

5月らしい爽やかな風が吹いています。もうすぐ運動会ですが、みなさん頑張っていますか？

さて、4月14日の夜と、4月16日の真夜中、2度の大きな地震がありました。みなさんは、そのときどこにいましたか？おそらくほとんどの人が、自分の家で寝ていたことでしょう。

ひょっとしたら、2回目の地震の時は車の中で寝ていた人もいるかもしれませんね。

今度の大地震で、熊本のいろんなところが痛めつけられました。たくさん大切な命も失われました。未だ見つかっていない大学生の人は、校長先生の近所の人です。

たくさん亡くなったといえば、言葉としてはそれで終わりですが、亡くなった人にはそれぞれが人生があって、関わりのある人がいて、その人たちにとっては、簡単な言葉で済まされることではないのですよね。

今日は、新聞を持ってきました。今回の地震の後も踏ん張って生きている人がたくさんいます。この記事を読みます。

5月7日（土）熊日朝刊 母の日特集 「いきよう」

痛めつけられた熊本城に、このような思いを寄せている人もいます。

5月1日（日）熊日朝刊 「熊本城」

また、みなさんはこの絵を見たことがありますか？

（スライド）くまモン頑張れ絵

この言葉がいいですね。「クーマーもん みんなそばにおるた〜い」

この絵のように、いろんな人が熊本を支援してくれています。

4月24日（日）熊日朝刊 福島新報社

4月19日（火）熊日朝刊 公共広告機構

校長先生は、東日本大震災の時に被災地のために何もできませんでした。でも、先日南阿蘇村と西原村にボランティアに行ったときに、仙台や福島から来たまだ二十歳そこそこの青年たちと会いました。

「あのときに支援してもらったから、きました。」
とってました。

涙が出ました。そして、助け合いたいと思いました。そんな気持ちになってから、この新聞を読む気持ちが少し変わった気がします。

みんな支えられているんですよね。横島小学校の先生の中にも、ボランティアで活動した先生もいます。

この絵をよく見てください。

再び（スライド）くまモン頑張れ絵

サイが言ってます。「ワシも入れてくだサイ。」このサイも、支えたのでしょうね。

これでお話を終わります。